



民主党千葉県第10区総支部長
衆議院議員 谷田川はじめ

「雄志」

民主党千葉県第10区総支部 谷田川はじめ後援会

【香取事務所】

〒287-0001 千葉県香取市佐原口2164-2

TEL 0478-54-5678 FAX 0478-52-6991

【国会事務所】

〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1

衆議院第1議員会館816号室

TEL 03-3508-7123 FAX 03-3508-3423

Mail:info@hajime-yatagawa.com

HP:www.hajime-yatagawa.com

今年も元日は、香取と成田地域、
寒中お見舞い申し上げます。

2日は、東総地域という具合に、遊説カーで新年の挨拶回りを行いました。民主党にとって厳しい状況が続く昨今ですが、行く先々で、手を振つて「頑張れ！」との温かいご声援を頂戴し、大変有難く思っています。私どもに期待してくれている有権者が少なからずいることを実感しています。その気持ちに報いるためにも、初心を忘れず、一歩ずつ前進して参る所存です。

宿命と思つて成田空港問題に取り組みます！

数ある職業の中で、なぜ自分は政治家を志したのか？その発端は家庭環境にありました。父は、二代目山村新治郎代議士の叔父に当たり、山村代議士の秘書を務めていました。それゆえ、私自身、小学生の頃から政治に興味を持ち始めました。まさに門前の小僧習わぬ経を読むだつた。治郎代議士が急逝し、その長男である直義氏は、父親の後継者として選ばれています。昭和39年に先代山村新治郎代議士が立候補することを全く考えていませんでした。それを翻意させたのが、自民党副総裁まで務めた川島正次郎代議士です。拒み続ける直義氏は、川島代議士は、「親父が手がけた成田空港をどうするんだ。親父が地下で泣いているぞ」と語つたそ

です。その言葉に促される

馬を決断。新治郎を襲名し、見事初当選を果たし、その後の活躍

は皆さんご存知の通りです。山村新治郎代議士と従兄弟の関係になり、その秘書として仕えた私にとって、成田空港問題は宿命的なものを感じます。昨年10月の羽田の本格的な国際線の運用開始により、成田空港の将来が懸念されています。が、こういった不安が払拭されるよう果敢に行動して参ります。昨年3月に民主党内に発足した成田空港ハブ化推進議員連盟は、実際に民主党所属国會議員の一割を超える52名が加入しています。その事務局長に就任した私としては、同僚議員にご協力頂きながら、成田空港の機能強化に全力で取り組んでいく所存です。本年もご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願ひ致します。



慣例となつた遊説カーでの新年挨拶回り

谷田川はじめ

平成二十三年一月

「谷田川元とともに雄志を抱く会」開催



熱弁をふるう野田佳彦財務大臣



連合千葉黒河悟会長

民主党県連代表
生方幸夫衆院議員

谷田川はじめ



小泉一成成田市長

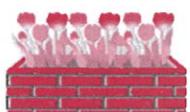
野田佳彦財務大臣を迎えて

「谷田川元とともに雄志を抱く会」が、野田佳彦財務大臣をお迎えして、11月14日夕刻に成田ビューホテルで開催された。二ヶ所設けられた会場は、立錐の余地がないほどで、1200人以上の参加者で埋め尽くされた。

発起人である民主党県連代表 生方幸夫衆院議員、連合千葉黒河悟会長、そして、地元市町長を代表して小泉一成市長から、それぞれ激励の挨拶があり、谷田川はじめに対する大きな期待が表明された。



乾杯の発声を行う武田一郎関東地方郵便局長会副会長、谷田川夫妻が右端



それを受けてマイクを握った谷田川はじめは、「千葉県10区発展の原動力は、成田空港と農林水産業だ。3月に民主党成田空港ハブ化推進議員連盟を立ち上げたが、11月25日に新会長に就任する長浜参議院議員の下、積極的な活動を開拓したい。TPP（環太平洋連携協定）については、日本の農林水産業の発展が担保されなければならない。」と力強く決意表明。

野田財務大臣は、「民主党には、140名余りの1年生議員がいるが、谷田川さんのように、立脚点が明確な人はいない。単なる天下国家論ではなく、地元を大事にし、成田空港や農林水産業など、地元の皆さんと語り合つたことを国会に届け、行政を動かし、実現しようとしている。政治家としての原点が一番明確な谷田川代議士をこれからも育て、支援してほしい。」と熱弁。

武田一郎関東地方郵便局長会副会長の発声による乾杯の後、地元有志の皆さんのが、ベリーダンスを披露して下さり、パーティは大盛況のうちに終了した。



成田ビューホテル翼の間



菅直人総理

香取市・旭市で野菜農家観察

菅直人総理が12月4日、香取市、旭市を訪れ、野菜の生産農家、加工施設などを視察した後、生産者や経営者の皆さんと車座での意見交換を行った。

視察には、小川勝也総理補佐官（参議院議員）と谷田川はじめが同行した。

旭市内のトマト生産農家で菅総理は、ハウス内で栽培されているスナックトマトを視察しながら、株「和郷」の木内社長からハウスの構造や、従来のパッケージングを、卸先に応じて変えることで卸値が上がつたなどの説明を受けた。

続けて、収穫した野菜の加工を行つてある野菜力ット工場や、バイオマスプランなど相次いで視察。生産から加工、販売までを行う、まさに民主党が進めている農業の6次産業化を実現している流れを感じとり見て回った。

視察の終了後には、地元生産者や、経営者らと車座の座談会を開いた。採りたての野菜サラダを振舞われた菅直人総理は、その美味しさに舌鼓を打ちながら、参加者から寄せられる問題点や、経営のうえでの工夫の説明に熱心に耳を傾けた。



地元生産者から車座で説明を受ける菅総理と谷田川はじめ

（農業の）6次産業化という言葉がなかなか国民に伝わりにくい面があると述べた上で、「（従来の）農家というと、生産した物を出荷するだけだつた。しかし、今日は生産した野菜を、加工するまでの視察を見させていただいた。さらに、今日は見られなかつたが、レストランで提供するサービスもしているという。このようないくつかのやり方は、意欲のある方には十分やつていただける。大変心強い」と、6次産業化への可能性に期待を表明した。

また、農地法改正についても、改善すべき点があれば改善すべきとの認識を示した。

千葉県10区の基幹産業は農業である。谷田川はじめは、今後も、農業を営んでいる皆様の声に耳を傾け、農業振興に全力で取り組んでいく覚悟である。

（民主246号）から抜粋

★ ★ 6次産業化へ期待感を示す ★ ★



スウェーデンの社会保障制度を学ぶ勉強会開催

=高福祉高負担国家はなぜ元気なのか=

講師：元駐スウェーデン特命全権大使

藤井 威氏

「国民生活が第一」と標榜する民主党にとって、安定的な社会保障を構築することは大きな課題である。昨年11月18日と25日、2回にわたり、元駐スウェーデン特命全権大使、藤井 威氏を講師にお招きし、議員会館会議室で勉強会を開催した。

民主党国會議員を対象に勉強会の案内を出したところ、予想以上の反響があり、2回の講演で、延べ100人を超える国會議員が参加した。



谷田川はじめ（中央）と藤井威氏（右）

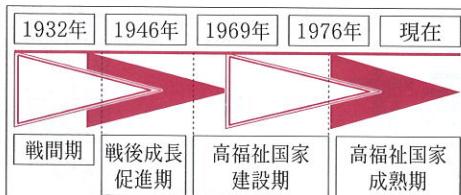
スウェーデンが福祉国家となつた経緯や国民性、日本との文化の違い、また、出生率の推移や女性の労働意識の変化を交えながら、スウェーデン福祉国家実現の経過について説明があった。

藤井 威（ふじい・たけし）1940年生まれ。1962年、東京大学法学部卒業後、直ちに大蔵省に入省。19年間を主計局で勤務し、国家予算編成事務に従事。1988年より3年間大蔵省主計局次長。1991年、経済企画庁官房長。1992年、大蔵省理財局長。財政投融資、国債管理、国有財産行政等の分野での事務方の責任者となる。1993年、内閣官房内閣内政審議室長。官邸にあつて内政面での政策調整の事務方を務める。1996年、退官。

1997年9月、駐スウェーデン特命全権大使兼ラトヴィア特命全権大使。2000年10月までストックホルム在勤。2001年3月、地域振興整備公団総裁を経て、みずほコーポレート銀行顧問を務める。全国各地で講演を開催。



福祉国家実現へのステップ



第1ステージ（戦間期）

大恐慌後の暗い時代にも外交的には中立を貫き、福祉国家の枠組みを形成。

第2ステージ（戦後成長促進期）

中立を貫いた結果、製造業が発展し高度成長を遂げた。

第3ステージ（高福祉国家建設）

①所得不公平配分のは正②不時の出来事(病気・失業等)に対するセーフティネット③男女機会均等法④優れた生活環境維持

第4ステージ（高福祉国家成熟期）

国民は高負担福祉に反対ではないが、負担率も限界まで上がる増税路線不可能な時代へと突入。福祉を遂行する上で増税、民主化地方分権を推進。

（社会党政権）が成立。福祉国家への道を歩み出した。その後、エランデル首相は、増税路線を主導し、23年もの長期政権の座にあつた。68年に退任後、後継のバルメ首相もこの路線を忠実に継承した。76年に石油ショック後の経済不況下で中道右派政権が成立するまで、実際に44年もの長期政権が続き、高福祉高負担国家の形成に成功し、国民からの支持を受けたのであつた。では、何故、長期政権が続き、増税を国民が受け入れたのか？

その大きな理由は、税負担増に伴い福祉水準を引き上げ、国民の受益感覚を引き出していったことにある。スウェーデンでは、貴族、大地主層といつた高額所得層と低所得層の格差は大きかつた。つまり福祉国家形成に向け不公平感を是正していくのだ。その結果、平均以下の低所得層の受益の負担がプラスされ、手厚い社会保障を実現するに至つた。これにより、高福祉高負担を推進してきた社会党政権が長期にわたつて安定的に市民の支持を得ることができた。

日本の財政再建の指針となる財政運営戦略と成長戦略の実行で「強い経済、強い財政、強い社会保障」を目指すわが民主党政権にとって、非常に示唆に富む内容だと思う。この認識を民主党内に共有できるよう頑張りたい。

第2回 民主党成田空港ハブ化推進議員連盟総会

=首都圏空港の現状と課題（成田空港と羽田空港を比較して）

講演

講師：成田国際空港株式会社 特別顧問 黒野匡彦 氏



スライドを使って説明する黒野匡彦講師

2010年、航空問題は歴史的な年であった。32年ぶりの羽田再国際化とともに、羽田、成田合わせて空港容量が5割アップし、ようやく空港後進国から脱却した。成田空港は、1978年開港以来、2本目の滑走路ができる迄24年の歳月を要した。

この間、羽田空港では、国内線の拡充を行ってきたが、気付いたらアジアの近隣諸国の空港に追いつかれてしまつた。そのような中、もう成田空港には期待できないという成田バッティングがあつた。

2002年の日韓ワールドカップ開催を契機に、首都圏にもうひとつ国際空港を設けてはどうかという議論になつた。2001年1月、運輸省から、国土交通省になつたことをきっかけに、河川局との滑走路を2500mにする工事が始まつた。

この間、羽田空港では、国内線の拡充を行ってきたが、気付いたらアジアの近隣諸国の空港に追いつかれてしまつた。そのような中、もう成田空港には期待できないという成田バッティングがあつた。

2002年の日韓ワールドカップ開催を契機に、首都圏にもうひとつ国際空港を設けてはどうかという議論になつた。2001年1月、運輸省から、国土交通省になつたことをきっかけに、河川局との滑走路を2500mにする工事が始まつた。

2010年、航空問題は歴史的な年であった。32年ぶりの羽田再国際化とともに、羽田、成田合わせて空港容量が5割アップし、ようやく空港後進国から脱却した。成田空港は、1978年開港以来、2本目の滑走路ができる迄24年の歳月を要した。

この間、羽田空港では、国内線の拡充を行ってきたが、気付いたらアジアの近隣諸国の空港に追いつかれてしまつた。そのような中、もう成田空港には期待できないという成田バッティングがあつた。

この間、羽田空港では、国内線の拡充を行ってきたが、気付いたらアジアの近隣諸国の空港に追いつかれてしまつた。そのような中、もう成田空港には期待できないという成田バッティングがあつた。

長浜新会長は、「成田空港の重要性をしつかり訴え、その機能強化をはかつていただきたい」と抱負を述べた。森中空港会社社長、本田航空局長それぞれから挨拶を頂き、その後空港会社特別顧問の黒野匡彦氏が「首都圏空港の現状と課題」と題して講演。参加した20名を超える議員が熱心に耳を傾けた。講演内容は以下の通り。



森中社長(右)と谷田川はじめ事務局長(中央)

現在、羽田空港への航路は東京湾と川崎市上空を飛んでおり、上空の空域が狭く限られている。羽田空港は、4本の滑走路を組み合わせて飛んでいるが、管制上難しい空港である。「羽田空港にもう1本滑走路を増やすのはどうか?」という議論もあるが、航路の調整が限界に近く、物理的に不可能である。「成長戦略」の指針で、空港問題に関する指針として3つのキーワードがある。①作る時代から使う時代に。②仮にどうしても作るならば民間の支援を借りて作ること。③空港整備会計に余裕があればエアラインの負担軽減に使うこと。もし、自民党政権時代なら、真っ先に国費を入れるということだ。羽田空港のキャパを増やす唯一の方法がある。それは、都心に向けて飛行機を飛ばす事だ。しかし非現実的な話だ。

成田空港は、これからも国際競争の強化に努めていかなければならぬ。企業としての採算性をどのように講じていくか。コストダウンをしながら利益を出し、どう資金調達を行っていくか。今後の大きな課題である。

一昨年夏の総選挙で、私たち民主党の候補者は、次のような主張を声高に展開した。「これまでの政治は、政策立案から舞台振り付けまですべて官僚に依存し、政治家が責任を取らない。それが結果として、国民生活を蔑ろにしてしまった。政権交代によって、そうした現状から脱却し、政治家が国民に対しつかり説明し責任を取る、まさに政治主導にしなくてはならない。」

この主張が国民に支持され、政権交代が実現した。そして、「脱官僚依存」をスローガンに鳩山内閣が発足すると、直ちに事務次官会議が廃止され、各省の方針は、大臣、副大臣、大臣政務官の政府3役が決定していくとの仕組みが作られた。しかし、当初の目論みとは違つてそれがうまく機能せず、民主党が主張してきた政治主導とは、いつたい何なのかという疑問が多い。多くの国民に持たれてしまつてゐる。それを象徴するのが、尖閣諸島沖の衝突事件で、中国人船長を釈放した件だ。

「検察から釈放するとの報告を受け、了とした」との仙石官房長官の9月24日の記者会見では、愕然とした。

それまで政府は、「国内の法手続きに従つて、肅々と進めて問題でいく」と繰り返し、この問題では、中国に譲歩しない姿勢を示していたからだ。そして、中国人船長が容疑を認めない以上、起訴し公判を開く。そのためにも証拠ビデオは、刑事訴訟法の規定に基づいて、公開できないとの立場を取つていた。それが、日本人社員の拘束やレアアースの禁輸措置等の中国からの圧力に、脆くも屈してしまつた。それもその判断は検察当局が行い、政治介入はなかつたとの立場を取つてゐるのである。那覇地検の次席検事は、中国人船長を釈放した。この時も、「日本政府は弱腰」等の国際的批判を受けた。田法務大臣は責任を取つて辞任した。この時も、「日本政府は弱腰」等の国際的批判を受けた。田法務大臣は、しかし、多くの国民は政府の決定を支持したのである。やがて、検察が日中関係を考慮した。検察が日中関係を考慮したことの説明を聞き、国民党は奇異に感じている。新聞報道によれば、中國側が強硬姿勢をエスカレートさせるたびに、菅総理が苛立つて、検察が日中関係を考慮したこととも選択肢として十分にあつたのではないか。この信念で、総理が法務大臣に指示して、指揮権を発動させたのが、今回のケースこそ正当であるが、今回のケースこそ正当であるが、今回のケースこそ正当であるが、今回のケースこそ正当であるが、今回のケースこそ正当であるが、今回のケースこそ正当であるが、今回のケースこそ正当であるが、

真の政治主導とは・・・

国民の目には、政治家が責任を役人に転嫁していると映つてしまつてゐる。

ここで思い起こされるのが、昭和52年に起きたダッカ日航機ハイジャック事件である。武装した日本赤軍グループが人質解放の条件に、捕らわれている仲間の釈放を要求。テロリストを釈放したら、法秩序が維持できないとして、福田一法務大臣が強硬に反対した。政府は激論の末、福田赳氏が、「人の生

時だけだ。当時の造船疑惑事件の総理）を逮捕しないよう吉田が検事総長に命じたのである。この指揮権発動は、国民党の猛反発を浴び、犬養法相は辞任を余儀なくされる。それ以来、歴代法務大臣はその行使を口にすることさえなかつた。しかし、法務大臣による指揮権発動を規定している検察庁法第14条を削除すべきとの議論は全くない。すなわち、検察の暴走をチエックするためにも、国民の負託を受けた時の内閣の法務大臣にその権限を与えてゐるのである。

中国人船長釈放の決定に際して、検察が日中関係を考慮したことの説明を聞き、国民党は奇異に感じている。新聞報道によれば、中國側が強硬姿勢をエスカレートさせるたびに、菅総理が苛立つて、検察が日中関係を考慮したこととも選択肢として十分にあつたのではないか。この信念で、総理が法務大臣に指示して、指揮権を発動させたのが、今回のケースこそ正当であるが、今回のケースこそ正当であるが、今回のケースこそ正当であるが、今回のケースこそ正当であるが、

中國人は理解したのである。また、中國人船長釈放の決定には、検察から事前に相談があつたが、今回のケースこそ正当であるが、今回のケースこそ正当であるが、

中國人は理解したのである。また、中國人船長釈放の決定には、検察から事前に相談があつたが、今回のケースこそ正当であるが、



● 皆さんの声をお聞かせ下さい！ ●

少人数でも結構です。ミニ集会等がございましたら事務所までご連絡下さい。谷田川元は今後も皆さんの貴重なご意見に耳を傾けてまいります！



地元から国会見学に訪れた小学生と記念写真
(12/17)



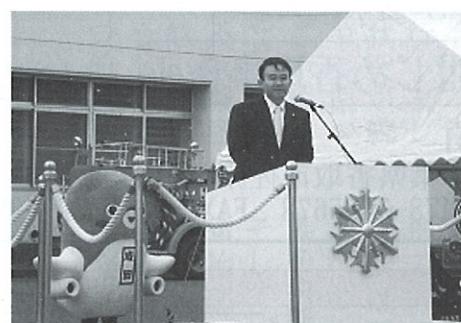
少年サッカー大会で挨拶する谷田川はじめ
(11/6)



ふるさとまつり・



千鶴ふるさと祭り(11/7)



成田市消防操法大会(10/24)



橋暫定供用開通式

銚子大橋暫定供用開通式典テープカット(12/22)
(谷田川はじめは左から4番目)



地元道路建設に関する陳情にて(11/26)

はじめの活動写真



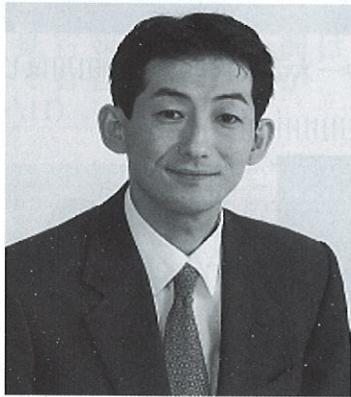
昨年は、延べにして600件以上の会合に参加させていただきました。感謝の念に耐えません。

「雄志」で紹介させていただく会合や写真は、ほんの一部に過ぎません。本年も、おひとりでも多くの方と接し、みなさんと共に考え、共に歩んで参ります。

統一地方選挙勝利に向け

4月10日に行われる予定の千葉県議会選挙で、民主党は、谷田川みつたけ 前香取市議を香取市選挙区における公認候補として決定しました。勝利に向け、皆様の力強いご支援・ご協力をお願い申し上げます。

民主党公認



谷田川みつたけ (43歳)



【プロフィール】

昭和42年	香取市に生まれる
昭和62年	千葉県立佐原高等学校卒業
平成3年	駒澤大学経営学部卒業
平成3年	株地産入社
平成5年	谷田川元秘書
平成18年	香取市議会議員初当選

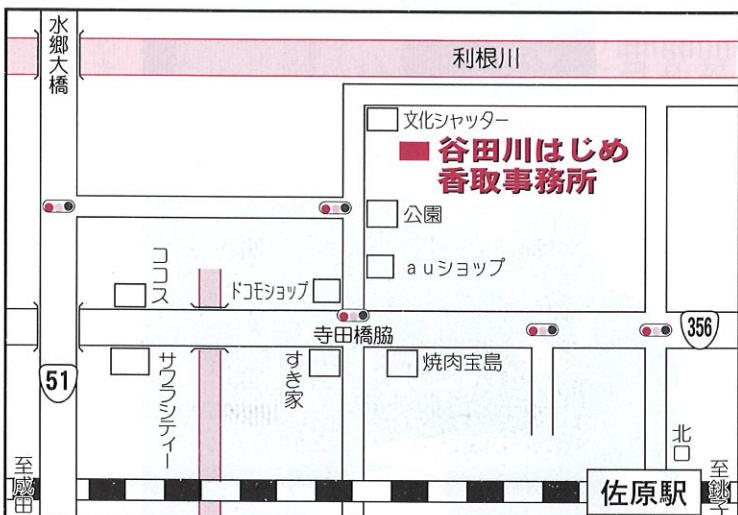
民主党広報板設置にご協力下さい！



左記のような民主党広報板を千葉10区内にできるだけ多く設置したいと存じます。設置にご協力頂ける方はお知らせ下さい。

谷田川はじめ香取事務所

〒287-0001
住所：千葉県香取市佐原口2164-2
電話：0478-54-5678 FAX：0478-52-6991



国会見学のお知らせ

谷田川はじめ事務所では、随時国会見学を募集致します。事務所スタッフが、隅々までご案内いたします。お子様からご年配者まで大歓迎！詳しくは国会事務所迄お問合せ下さい。

□お問合せ先□

【国会事務所】

電話：03-3508-7123

担当〈佐藤・羽根〉



【谷田川はじめプロフィール】

昭和38年	1月17日香取市に生まれる
56年	千葉県立佐原高校卒業
60年	早稲田大学政治経済学部卒業
同年	丸紅（株）入社
63年	（財）松下政経塾入塾 在塾中、米国連邦下院議員政策スタッフとして活動
平成3年	衆議院議員山村新治郎秘書
5年	千葉県議会議員 初当選 以後4期連続当選
21年 【現在】	3度目の挑戦で衆議院議員 初当選 拉致問題委員会理事 国土交通委員会委員 決算行政監視委員会委員 倫理選挙委員会委員 成田空港ハブ化推進議員連盟事務局長 千葉県ハンドボール協会会长

